

「反対派が代替地へ移転…」なるデマは弾劾！

日刊 動労千葉

84. 10. 30

No. 1779

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

「二期強行」へとあせる政府・公団の 同盟破壊攻撃を許すな！

十月二六日の商業新聞は、一斉に、「代替地耕作、反対派に衝撃」なる記事を大々的に報道した。これは、成田用水阻止闘争「10・10」の大爆発に追いつめられた政府・空港公団の反動マスコミと一体となった、反対同盟破壊を狙う悪質なデマキャンペーンである。こうした攻撃に微動だにせず、更に闘う決意をうちかため結束を強めている反対同盟と連帯し、二期阻止を闘いぬこうではないか。

激化する反対同盟破壊攻撃

政府・公団は二期工事着工の最大の障害物として反対同盟の解体にむけ、悪らつな攻撃をくり返してきている。

運輸省・公団は、八月二八日、来年度概算要求の中で初めて二期工事関係予算を要求するとともに、九月二五日以降、六〇〇〇名の機動隊を投入して、二期着工そのものである成田用水菱田工区の着工を強行した。

さらに、大量の機動隊の常駐・警戒体制のもとで、成田用水工事を継続するとともに、この秋にも公団用地に防護フェンスを張りめぐらし自主耕作地破壊を狙っている。

今秋二期着工阻止・成田用水粉碎・自主耕作地破壊阻止の闘いは、いよいよ本番を迎えている。

あせりかられた政府・公団―条

件派―反動マスコミ一体のデマ宣伝

政府・公団は、三里塚・芝山の現地を機動隊の暴力で制圧したうえで、商業新聞を使って、あたかも反対同盟が分裂し解体寸前であり反対闘争ももう終りであるかのようにおもわせるデマキャンペーンを展開した。

十月二六日、主要商業新聞は、「用地内反対派4戸が十月二四日から成田市内の代替地で麦の耕作を始めたことは、二期着工を間近にした反対派に衝撃を与え、亀裂を深めている…」と報じた。

だが、事実はどうか？ そもそも、彼らが「反対派：」などと称しているものの実体は、三年前当時反対同盟の要職にありながら公団の誘いに屈して裏切りで総条件派化を策動して失敗し、反対同盟から厳しく糾弾され、役職を解任され、事実上追放されている、かの石橋元副委員長をは

じめ、全員すでに数年前に条件派として裏切り・脱落していった部分であり、「反対派」ではなく今日では同盟および関係者の間では知らぬ人もない「空港賛成」派なのである。それを、「反対派が移転準備：」なるデマを流してゆさぶりをかけ新たな切り崩しのきっかけを狙おうという悪らつな攻撃を断じて許すことにはできない。

用地内を守り、二期決戦に勝利しよう

反対同盟は、「二期用地」内の天神峰・小川嘉吉さん、小川喜平さん、市東東市さん、加藤清さん、加藤俊宣さん、東峰・島村良助さんの6戸、及び用地内に農地を死守する瓜生あいさん（辺田）を先頭として、巖として微動だにせず、以前にも増して激しい怒りと闘魂をもやし、一層固い結束のもと、公団の切り崩しをもとめせず意気軒昂と闘いぬいでいる。この不屈・非妥協に闘う反対同盟が健在である限り、いかなる「二期プラン」も絵に描いたモチであり、莫大な「二期予算」もムダ金にすぎない。

今回のデマ報道自身が、その同じ記事の中に、はからずも公団および条件・脱落派たちのあせりと危機感を告白している。いわく「：いっこうに進転しない移転で、せっかくの代替地は草ボウボウの荒れ野と化しており、このまま放置しておく」と農地として使えなくなるおそれが出てきた。とりあえず麦でも植えて維持・管理しなければ、と「：一」というあせりと動揺、それゆえの「金と機動隊のみが唯一の頼り」という暴力的な強行手段にうったえようとしているのだ。

政府・公団―反動マスコミ一体となったデマキャンペーンをうち破り、あくまでも用地内農民を守り通して、「10・10」―四〇〇〇名決起の大勝利を突破口に、今秋二期決戦とともに闘いぬこうではないか。